

令和6年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰(文部科学大臣賞)の報告

教育学部 4年次 城塚 一輝

2年次 崎川 初音

大学院教育学研究科 准教授 村末 勇介

◆本表彰制度の概要（募集要項 <https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/commend/>より作成）

1. 主催 リデュース・リユース・リサイクル推進協議

2. 目的

本表彰は平成4年度よりスタートし、リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）（以下「3R」）に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている者を表彰することによりこれらの活動を奨励し、もって循環型社会の形成推進を図る。

3. 表彰対象

循環型社会の形成に向け、廃棄物等の3Rに率先して取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている「個人・グループ・学校」及び「事業所・地方公共団体等」（以下「候補者」）。

(1)対象となる取組

- 自らが3Rを実践する活動であり他の模範となる取組
- 他者・地域との3Rを推進するための連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3Rを推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動
- 昨今のコロナ禍によって発生した課題を、資源循環を通じて解決した活動
- 地域や他業種と連携してリサイクルループを作るなど、単独では不可能であった資源循環をパートナーシップで実現した活動
- SDGsにも通ずるような他の課題の解決と同時に資源循環を実現した活動、例えば、地域振興、高齢化・過疎化など社会の課題と資源循環を組み合わせることで同時解決したような活動
- 資源循環によって新しい価値を生み出し、社会システムの変革などを促した活動 等

(2)対象者

- 「個人・グループ・学校」： 個人、自治会、ボランティア、学校 等
- 「事業所・地方公共団体等」： 企業、工場、都道府県、市区町村 等

4. 賞の種類

- ・各大臣賞 ・リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞

文部科学大臣賞 「個人・グループ・学校」分野	受賞者名
	SPLEA ICVs
	取組の実践場所
	愛知県、京都府、福岡県、沖縄県、大阪府、東京都
	受賞テーマ
	すべての子どもに行き届いた教育を ～家に眠るリユース品をカンボジアの子どもたちへ～
受賞者は、2012年3月から東南アジアのカンボジア北部オドウメンチェイ州およびシェムリアップ市への国際教育支援を、スポーツ教育学を専攻する大学教員とその学生らと大学協同で行っているボランティア活動団体である。2012年から2024年3月までの12年間、17期に渡りカンボジア北部を中心に訪問し教育活動を支援するとともに、日本の市民から預かった寄付物（以下、リユースと表記）を旅行キャリー満杯に詰め、教育活動に参加した子どもたちや先生たちへ直接手渡しをして利用してもらう活動を行っている。 ※ SPLEA ICVs (Sport and Physical Literacy Education for All, International Cooperation Volunteers)	
1. 取組内容：文房具、運動用具、衣類、玩具等のカンボジアでのリユース カンボジアの北部に位置するオドウメンチェイ州のチョンカル郡では、小学校へ通う子どもたちはノートや鉛筆などの勉強道具が十分でない経済状況にあることから、体育・音楽・図画工作・科学・英語等の提案授業、運動会や運動文化祭の開催、スポーツフェスティバルの開催、放課後活動支援、児童養護施設や乳児院訪問などを中心に教育支援活動を行い、その活動に参加する子どもや教師に「参加賞」として文房具や運動用具などのリユース品を渡している。	
2. 取組のポイント：12年間、6都府県10大学におけるリユース品の国内収集 立ち上げ当初は2県4大学であったが、現在では6都府県10大学の教員や学生で組織され、これまで延べ1,381名の学生登録があった。この学生らがリユースされる文具類や運動用具などを収集するために、大学ごとにメディアリリースやSNS、学園祭、大学行事、母校訪問等を使い、全国の家やお店などに眠っている未使用のリユース品を収集するための知恵を出し合い収集を行っている。	
3. 取組の独自性：現地への直接運搬と参加学生の意識変革 一般的には国外への支援に直接参加することは困難なため、次世代を担う大学生が、国内活動を行う学生も一体となって学友や市民へ働きかけ、提供者の想いが込められたリユース品を収集する。それを現地渡航する学生らが直接自身の旅行キャリーケースに詰め込み、現地へと持ち込む。そして子ども一人一人に確実にリユース品を渡す必要があるため、直接持参して直接手渡す方法が最も確実である。さらに学生らにとって、ノートや鉛筆などの日用品をもらい大喜びをする子どもを目の当たりにすることによって、モノに対する見方や社会に対する考え方など様々な意識変革が生じる。例えば、カンボジアへ持参する道具には極力ビニール袋やプラスチックを用いない工夫や廃棄されない道具を選択したり、国内での自身の生活において廃棄を避けるための会議を発足したりするなど、国際教育協力の中のリユース活動によって、学生自身に新たな文化が注入されることに繋がる。	
4. 今後の予定：2024年8月および2025年2～3月渡航に向けてリユース収集継続中 2024年度は、昨年度と同様に2025年の2～3月の渡航に向けて各大学が新たなメンバーを募集し、カンボジアへ持参する文房具や運動用具、楽器、衣類などのリユース品の収集を開始している。毎年8月に教員が実地調査に出向くが、その際にも数名の学生を引率し、数名で可能な教育支援を組み込むため、早速8月に向けたリユース収集を急いでいる。	



カンボジアの子どもの文房具



廃校の倉庫にあった体育用具



新聞記事で集まった文房具類



ホテルで文具の袋詰め作業



活動後に文具一式を手にピース

Ⅱ. 2024年度計画(SPLEA・ICVs活動方針概要)

2024年5月19日(日)

Ⅱ-1-(1) 教員総務会の組織体制&役割分担

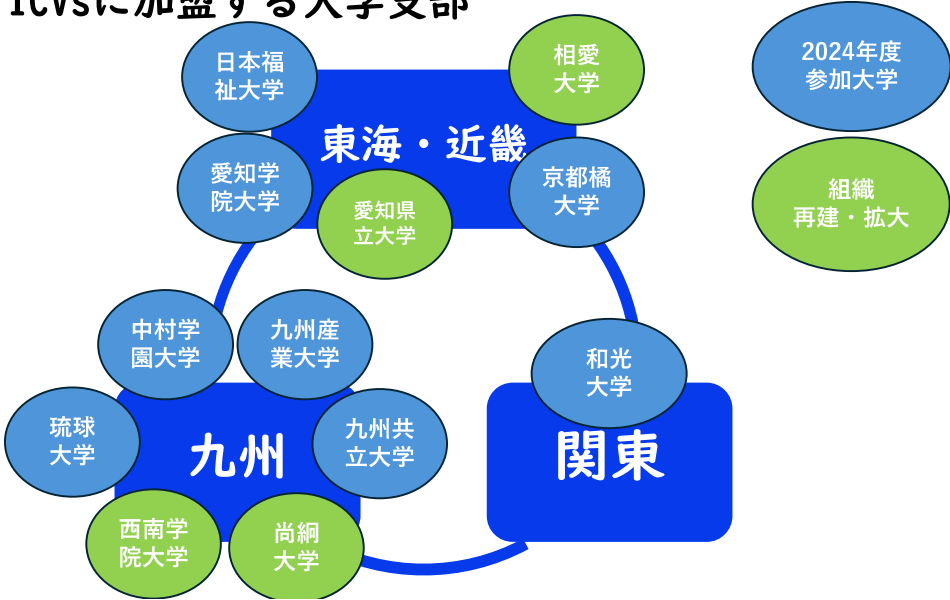
- 【代表】伊藤 【副代表】海野・前田・村末・口野
- 【渉外】鐘ヶ江(国外学校等) 制野(国内友好団体)
- 【希望館】黒川・海野
- 【交流会・提案授業】村末・前田・山田
- 【運動会・スポフェス】續木・黒川
- 【財務・クラファン】中島・村末
- 【国内活動】伊藤(近畿東海)、中島(九州・沖縄)
- 【寄付】口野
- 【広報・HP】村末
- 【組織拡大】前田・鄭
- 【実踏・18期】鐘ヶ江・村末

Ⅱ-1-(2) ICVs学生総務会の組織体制&役割分担

2024年6月24日(土)

- ・学生の状況:2024年5月19日(日)現在、学生メンバー約100名 9大学
- ・学生総務 団長:日本福祉大学3年(スポーツ科学部) 伊藤稔基
- 団長補佐:愛知学院大学3年(法学部)川手翔生、九州産業大学3年(人間科学部)塩崎愛子
- 1. 副団長:中村学園大学2年(教育学部)小宮花菜
- 2. 副団長:琉球大学4年(教育学部)城塚一輝
- 3. 副団長:九州共立大学3年(スポーツ学部)小松天馬
- 4. 副団長:九州産業大学3年(人間科学部)田中日奈子
- 5. 副団長:京都橘大学3年(発達教育学部)牛谷文香
- 6. 副団長:愛知学院大学2年(文学部)小寺七聖(日進キャンパス)
2年(法学部)岩屋亮介(名城キャンパス)
- 7. 副団長:日本福祉大学4年(スポーツ科学部)森雄飛
- 8. 副団長:和光大学 未定
- 9. 副団長:相愛大学 未定
- ※ 西南学院大学(休会中)

SPLEA：ICVsに加盟する大学支部



Ⅱ-1-(3) 2024年度事業計画

第Ⅰ回全体会(リモート)：6月8日(土) 9:30~12:30

- ・2023年度16期・17期の成果と課題の共有(各係の活動報告、事業課題の把握)
- ・各大学の取り組みの共有
- ・8月実踏調査活動計画案
- ・第1回合宿研究会計画
- ・18期19期渡航希望者募集開始

第Ⅰ回ブロック合宿研修会：7月13日(土) 13:00~14日(日) 12:00

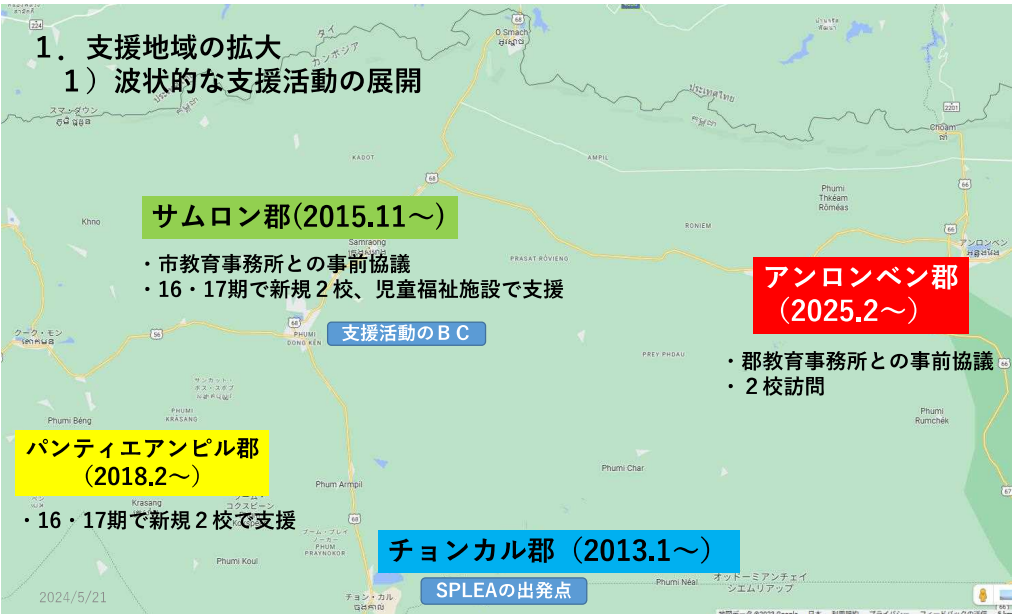
- (九州ブロック(福岡)／関近・東海ブロック(愛学))
- ・ブロック交流(レクリエーション)
- ・18期19期の役割分担
- ・ブロックメンバーの顔合わせ、係等作業計画の作成、指導案の作成計画

実踏調査 8月18日(日)~25日(水)現地出発(26日 帰国)

1. 2024年度カンボジア支援活動計画（案）

8月	2～3月	
実地調査	18期カンボジア支援 (サムロン→アンロンベンルート)	19期カンボジア支援 (アンロンベン→サムロンルート)
・8/18出発、8/26日帰国 ・伊藤、海野、口野、鐘ヶ江 村末、黒川、学生希望者	・2月14日出発、2月24日帰国 ・黒川、中島、鐘ヶ江、續木 学生35名	・2月28日出発、3月10日帰国 ・伊藤、海野、口野、前田、久我 学生35名
○18・19期支援に関するニーズ調査 および打合せ ・現地のニーズに合った支援 ・支援地域の拡大（新規開拓を含む） ○物資支援（文房具、スポーツ用品） ○大学祭などでの物販物品購入 ○18期、19期支援計画の策定	実地調査の結果を踏まえ、以下の1－①、1－②、2－①、2－②を 組合わせて実施する。 1. チョンカル郡、サムロン郡、パンティエアンピル郡での支援活動 ① 継続校 での「音・図・体」提案授業、運動会、幼児教育支援、 文房具、スポーツ用品などの物資支援 ② 新規校 での交流会、文房具などの物資支援 2. アンロンベン郡での支援活動 ① 新規校 への学校訪問、 ② 新規校 での交流会、文房具などの物資支援	

2024/5/21



1. 支援地域の拡大
2) オドメンチェイ州4番目の郡、アンロンベン郡での支援

- ・州・郡教育事務所と連携した支援活動
- ・クラスター中核校から周縁校へ
(横の線を意識した支援)



トロペンターウ村
サマキ・オスモー小学校
(2020年3月訪問)

- ・前々回の総選挙前に中学校を併設した新校舎建設。

・家の仕事の手伝いや通学に時間がかかるため、欠席する子どもが多い。
学業成績も伸び悩んでいる。

・海外からの支援はWFPのみ。教育内容・方法、スポーツ用具などの支援に期待している。

・設備、用具が不足しているので体育授業は体操のみに止まっている。

2024/5/21



3) 18期・19期支援計画案

シェムリアップーサムロン：130km、2 時間20分
サムロンーアンロンベン：75km、1 時間15分
アンロンベンーシェムリアップ：137km、2 時間30分

- ・アンロンベン支援はサムロンからの通いは無理
- ・時計回り（右回り）ルート、反時計回り（左回り）ルート

18期：2月14日（金）～2月23日（日）現地出発
シェムリ2泊、サムロン4泊、アンロンベン2泊、シェムリ1泊

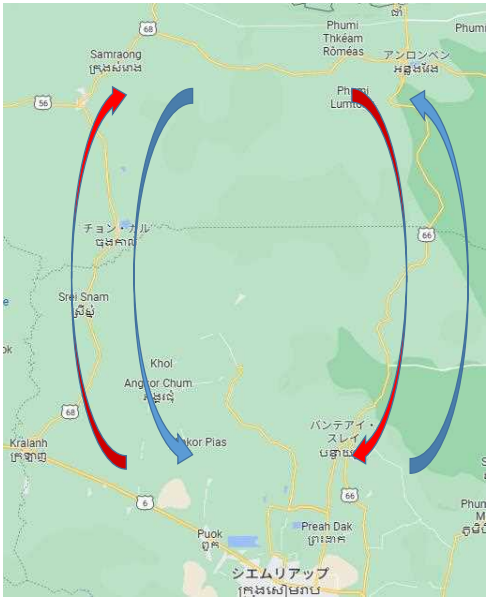
- ・サムロン、チョンカル、パンティエアンピルの継続校での支援
- ・アンロンベンの新規校での支援

19期：2月28日（金）～3月9日（日）現地出発
シェムリ2泊、アンロンベン3泊、サムロン3泊、シェムリ1泊

- ・アンロンベンの新規校での支援
- ・サムロン、チョンカル、パンティエアンピルの継続校での支援

◎将来的なアンロンベン6泊支援活動に繋げる

2024/5/21



4) 実踏調査について

2023年8月実踏修正案：口野、村末、海野、黒川、鐘ヶ江		
日程	訪問予定	宿泊地
1 8月19日（土）	10:30福岡発（VN357）→13:00ハノイ着、15:30ハノイ発（VN837）→17:10シェムリアップ着	タプルーム① ツイン3R
2 8月20日（日）	13:00チョンカル小学校訪問（①15期以降の教育情勢聴取、②KIBOUKAN構想の進捗状況の確認など）、③実踏調査行程の確認	ブラカップ① ツイン3R
3 8月21日（月）	8:00国道68号北東ルート（キリバン小以西）での新規校（16・17期）探索（ノアボ、時間的に4校程度か） 13:00オドメンチェイ州教育事務所訪問（教育情勢の聴取、支援活動への協力依頼（サムロン市新規校、アンロンベン部での活動：依頼文書送付済） 14:00サムロン市教育事務所（初訪問・ノアボ）	ブラカップ② ツイン3R
4 8月22日（火）	16・17期での支援継続校への訪問（チョンカル村、パンティエアンピル部）	ブラカップ③ ツイン3R
5 8月23日（水）	①16・17期での支援継続校への訪問（チョンカル村、パンティエアンピル部） ②KIBOUKAN交渉（契約時支払：5000\$（25%）） ③16・17期ブラカップ交渉	ブラカップ④ ツイン3R
6 8月24日（木）	8:00アンロンベントートでの新規校（16・17期）探索（サムロン市内：対象校は21日の協議で4校程度選定） 14:00アンロンベン郡教育事務所訪問（PECH RATANA教育局長に依頼済）	アンロンベン① ツイン3R
7 8月25日（金）	8:00アンロンベン部での新規校（18期以降）探索（トロベンターウ村、アンロンベン市） 15:00国道66号経由でシェムリアップへ移動	タプルーム② ツイン3R
8 8月26日（土）	午前中、ホテルにて16・17期の支援活動の検討 18:20シェムリアップ発（VN812）→19:40ハノイ着	
9 8月27日（日）	00:25ハノイ発（VN350）→07:30福岡着	

2024/5/21

- ・教育事務所など関係機関への協力依頼
- ・支援校の授業実施状況（実態）などの把握
- ・支援校の児童数、教室、運動場、備品などの状況把握
- ・現地ニーズの把握
- ・ホテル宿泊、食事、ガイド、車両などの手配
- ・大学祭などでの物販物品購入
- ・18・19期支援計画第一次案の立案→第2回全体研修会（9月14・15日）で調査報告とともに提案

オドメンチェイ州第5のトラピアンプラサット郡のポペール小学校（2020.3月訪問）



2005年に日本小型武器対策支援チームの支援により校舎建設



WFP食料援助、外国からの支援で木造の固定遊具や文房具寄付



前々回の総選挙前に立派なバレー、バスケ、サッカーコートが新設。でも、それぞれのボールはなし。

現地の実情や現場の人々の必要と要求とのミスマッチ

アンロンベン郡教育事務所協議（2023.8.24） 学校訪問（2023.8.25）

ルムトゥン中学校：広いグラウンド、熱い体育教師、しかし、158名が学ぶ学校にボールは1個・・・。



- ・生徒にスポーツ活動を推奨しているが、用具不足や施設の整備ができておらず、難しい。中古のボールを寄付してもらっているが不足している（ルムトゥン中学校体育教師）

ルムトゥン小学校：ともに学びたいと語る教師、アンロンベン郡の子どもたちのために



- ・自分の学校で活動をしてほしい。教員研修をお願いしたい。子どもたちのために一緒に学びたい（ルムトゥン小学校教師）

カンボジアで、オドメンチェイ州で支援を継続することは間違いはない！

18期渡航計画（案）

		活動内容	ホテル
1	2/14（金）	日本出国、カンボジア入国	シェムリアップ①
2	2/15（土）	サムロンへ移動、KIBOKANイベント	シェムリアップ②
3	2/16（日）	最終打ち合わせ会議	サムロン①
4	2/17（月）	継続校（２校）での活動	サムロン②
5	2/18（火）	継続校（２校）での活動	サムロン③
6	2/19（水）	継続校（２校）での活動	サムロン④
7	2/20（木）	チェックアウト、サムロン東部継続校（新規校）で活動、アンロンベンへ移動	アンロンベン①
8	2/21（金）	新規校での活動	アンロンベン②
9	2/22（土）	新規校での活動、シェムリアップへ移動	シェムリアップ③
10	2/23（日）	アンコールワット観光、カンボジア出国	機中泊
11	2/24（月）	日本入国	

2024/5/21

19期渡航計画（案）

		活動内容	ホテル
1	2/28（金）	日本出国、カンボジア入国	シェムリアップ①
2	3/1（土）	最終打ち合わせ会議	シェムリアップ②
3	3/2（日）	アンロンベンへ移動、ルムトゥン小学校訪問	アンロンベン①
4	3/3（月）	継続校（２校）での活動（交流会）	アンロンベン②
5	3/4（火）	継続校（２校）での活動（交流会）	アンロンベン③
6	3/5（水）	チェックアウト、アンロンベン西部（サムロン東部）で活動、サムロンへ移動	サムロン①
7	3/6（木）	継続校（２校）での活動	サムロン②
8	3/7（金）	継続校（２校）での活動	サムロン③
9	3/8（土）	KIBOKANイベント、シェムリアップへ移動	シェムリアップ②
10	3/9（日）	アンコールワット観光、カンボジア出国	機中泊
11	3/10（月）	日本入国	

2024/5/21

1. 2024年度カンボジア支援活動計画（案）

8月	2～3月	
実踏調査	18期カンボジア支援 (サムロン→アンロンベンルート)	19期カンボジア支援 (アンロンベン→サムロンルート)
・8/18出発、8月26日帰国 ・伊藤、海野、口野、鐘ヶ江 村末、黒川、 学生希望者	・2月14日出発、2月24日帰国 ・黒川、中島、鐘ヶ江、續木 学生35名	・2月28日出発、3月10日帰国 ・伊藤、海野、口野、前田、久我 学生35名
○18・19期支援に関するニーズ調査 および打合せ ・現地のニーズに合った支援 ・支援地域の拡大（新規開拓を含む） ○物資支援（文房具、スポーツ用品） ○大学祭などでの物販物品購入 ○18期、19期支援計画の策定	実踏調査の結果を踏まえ、以下の1－①、1－②、2－①、2－②を 組合わせて実施する。 1. チョンカル郡、サムロン郡、パンティエアンピル郡での支援活動 ① 継続校 での「音・図・体」提案授業、運動会、幼児教育支援、 文房具、スポーツ用品などの物資支援 ② 新規校 での交流会、文房具などの物資支援 2. アンロンベン郡での支援活動 ① 新規校 への学校訪問、 ② 新規校 での交流会、文房具などの物資支援	

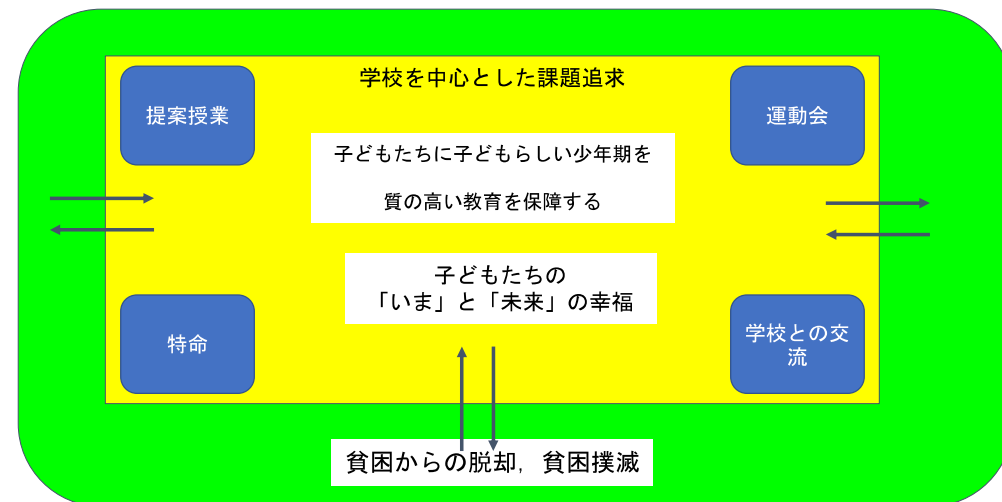
2024/5/21

Ⅲ-2
希望館運営・充実方策及
び資金調達について

2024年度 SPLEA総会
2024.05.19
黒川 哲也

“Happy Smile Project” を推進しよう！

1. これまでの活動とKIBOKANを核にした支援活動の拡大



(1) どんな活動をおこなってきたか





お絵かき・折り紙指導



音楽指導



教員研修会



校内清掃活動



近隣住民のご自宅へ訪問・交流

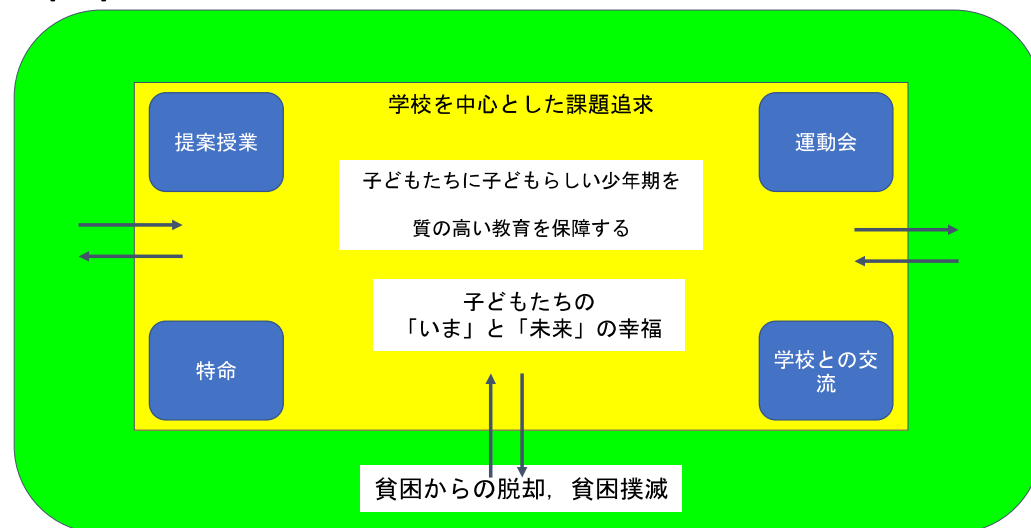


3. 支援活動の課題 子どもの「いま」と「将来」の必要・要求に応える

(1) 「いま」の必要に応える活動

- ①子どもたちに「質の高い教育を」：子ども・教師の必要・要求に応える
- ②学びの手立てを子どもたちに：文房具・衣類・スポーツ用品etc.物資支援
- ③学校外での学びの「場」を確保：彼らの「学び」を途絶えさせない
- ④子どもたちに地域で生きる希望を：地域を育てる知恵と力を育てよう

(2) 「将来」の必要に応える活動



:「ICVs “Happy Smile Project” KIBOKAN」づくり

子どもたちの学びの継続のためには,「大人の幸福」が土台

- 地域の人たちの「文化と暮らしのコミュニティ・センター」であること
- 子どもと地域住民が「希望を語り合う場」であること
- 私たちの活動の「拠点」となること
- 地域を育てる・住民の自己教育





4. 支援を拡大するための課題 活動内容

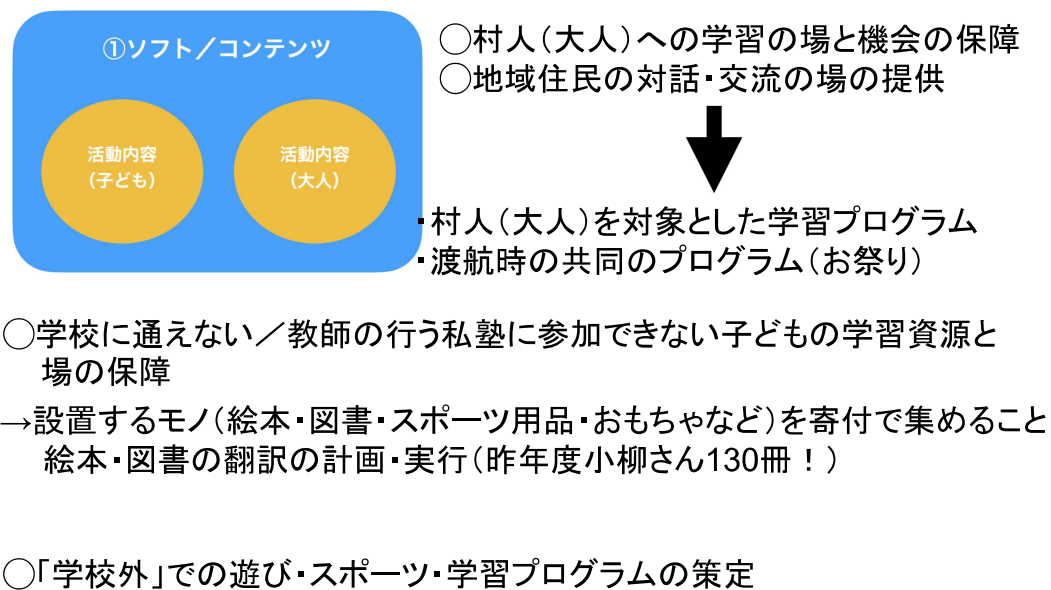
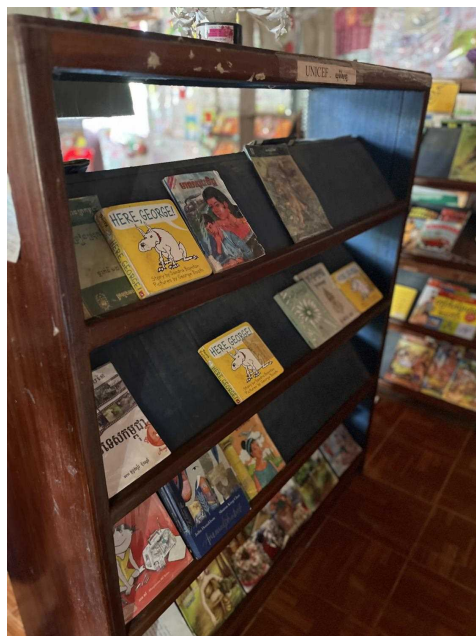


○設置する調度品等(棚・机・椅子など)の調達
→机・書架各4注文済み(実踏調査で支払い)

○「学びの場」のデザイン
→実施する活動を構想し,
「何を」「どれだけ」設置し,
「どのように」活用するのか?



- 16・17期での調査結果の確認
- 活動の中長期計画立案





子ども・地域の人たちと「お祭り」を作ろう！

18・19期で実現させよう！！

子どもたちと学び・遊び・お腹いっぱい “子ども祭”

地域の人たちと語り・踊り・交流する “KIBOKANバザール”

③マネジメント

マネジメント
(ルール)

マネジメント
(人的資源)

- 利用のルール・手立ての策定
 - ・「教室／集いの場」としての利用
 - ・用具の貸し出し

○雇用の創出(施設管理・司書の雇用)

○日本からの渡航時に、我々が宿泊する場(設置用具)の確保

5. 支援を拡大するための課題 資金・物資！

○内装・設置する調度品	200万
○絵本・児童書等の翻訳費用	10万
○「司書」雇用費用	15万
○日用品(洋服, 文房具, 運動用具, etc.) 寄付	
○その他 必要物品の購入費用	?
○建設頭金(立替分)	75万
計	約300万

クラファン, 街頭募金, 市民への物資支援等を
精力的に進めよう！

「寄付」が意味するもの

2011年に会ったカンボジア農村部の子どもたちと運動用具



第3次訪問 運動会開催の申し入れ

2012年3月13日～20日 北部チョンカル村(教員総務3名)



訪問した小学校の児童に、手荷物として運べる限界量の、ささやかなお土産を

実際には参加できない人々の想いを直接手渡す役割

各大学や母校での寄付のお願い



- チラシ・ポスター
- 放送
- 食堂でのモニター放映
- 寄付BOXの設置(学生課・丸善・中島研究室前)
- 講義前アナウンス(教育学部1・2年生を対象)
- 学校・企業訪問
 - ・中村学園女子高等学校
 - ・中村学園三陽高等学校
 - ・福岡県立鞍手高等学校
 - ・福岡県立竜徳高等学校
 - ・佐賀県立佐賀工業高等学校
 - ・一平ラーメン
 - ・テニスクールラフ福重校
 - ・藤内商店
 - ・ローソン若宮インター店
 - ・かんべえ
 - ・生松台の地域の方々

「直接手渡す」ことの意味



2022年11月訪問したオプリール小の様子と文房具



ベトナム航空（とタイ航空）の預け荷物

1. 機内持ち込み
(リュックORキャリー)
+ ミニバッグ
(12キロ未満)



三辺115センチ以内

2. 預け荷物
23キロを2個以内
(三辺の合計158センチ以内)



三辺158センチ以内



1個: 23キロ以内
事前申込100ドル
当日120ドル

Ⅲ-4 参加大学「学生ICVs」活動スタート状況及び今年度の抱負

三役挨拶及び各大学副団長報告（稔基進行）

2024年度も
みんなでやりきろう！
2024年5月19日(日)

琉大生海外で教育支援

カンボジア・ラオス 小学校で授業

琉球大学教育学部の2年生14人が27日から3月17日にかけて、カンボジアとラオスで教育支援活動をする。現地の小学校で体育や音楽、図画工作の授業をし、親睦を深める。全国11の大学が共同で実施するボランティア活動で、琉大は本年度初めて参加。学生たちは運動会などを計画しており、交流を楽しみにしている。

教育学部14人 交流へ

活動は「すべての子どもたちに行き届いた教育」を目指し、2011年度に始まった。一足先にカンボジアの小学校で授業をした「教師」として授けられたところ、「子どもたちが笑顔を見せるのが特徴だ」。



カンボジアとラオスで教育支援活動をする琉球大学教育学部の2年生＝12日、西原町の同大

受け入れてくれた」と振り返る。

通訳を介しての進行は難しかったというが、「身ぶりや表情でなんとか伝えようと必死だった。グラウンドが未整備で体育の授業がない学校もあるようなので、学校改革につながるような運動の楽しさを伝えたい」と説明する。



カンボジアの子どもたちに体育を教える大学生＝2018年12月（稲城いづみさん提供）

人(20)は「不安はあるけれど、一緒に楽しむことを心掛けた。大きな学びを得られると思う」と期待を寄せる。准教授、電話098(8995)836927。学生たちは今後も活動を続

沖縄タイムス(20190227)

海外教育支援 高校生の力を「SPLEA」琉大支部が募集



カンボジアなどへの教育支援に取り組むSPLEA琉球大学支部の(左から)稲福奏さん、宮城美希さん、金城樺厘さん＝13日、西原町の同大

文房具、公民館資金寄付も

カンボジアやラオスで教育支援活動をしている琉球大学支部が、活動を支援する高校生を募集して

いる。現地に贈る文房具などの収集を手伝ってもらう予定だ。学校に通えない子どもが利用できる公民館「KIBOUKAN」を現地に建設予定で、寄付金も募っている。

同団体は教育で貧困の連鎖を断ち切るために活動する全国組織。所属メンバーはカンボジアなどに渡航して現地の教員と連携し、運動会を開催したり、指導法を提案したりしている。琉球大は4年の支部長、稲福奏さん(22)、1年の宮城美希さん(19)、科目等履修生の金城樺厘さん(23)ら約10人が活動している。

文房具は現地で開催する運動会の参加賞として

子どもたちに渡す。沖縄受験セミナーなどに寄付箱を設置しているが、高校生の支援を得れば収集力が増すと考え、高校生メンバーを募ることにした。参加した高校生にはボランティア証明書を発行する。

「KIBOUKAN」建設には約300万円必要で200万円を寄付で集めるのが目標。稲福さんらは「カンボジアは小学校入学率が高いが卒業率は低い。貧困による児童労働で学校に通えなくなっている」と支援の必要性を説明した。問い合わせはメール5931spea@gmail.com。(稲福政俊)

琉球新報(20230124)